

ふくおかの経済

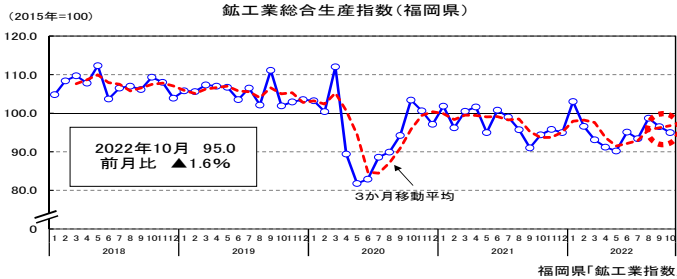
令和4年12月号



生産

持ち直しの動きがみられる。

10月の生産指数は、輸送機械工業などの低下により2か月連続で前月を下回りましたが、3か月移動平均では前月を上回りました。

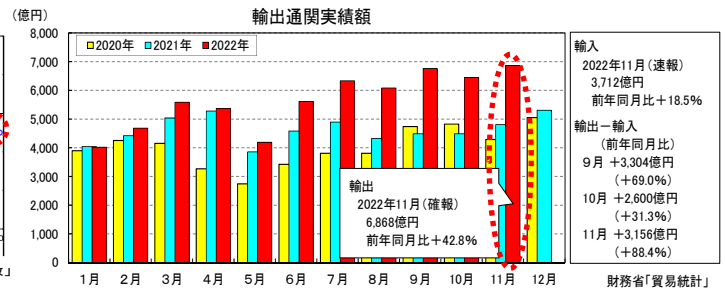


鉱工業生産指数は、2015年の生産水準を100として、その変化を表しています。

貿易

輸出額、輸入額ともに、前年同月を上回っている。

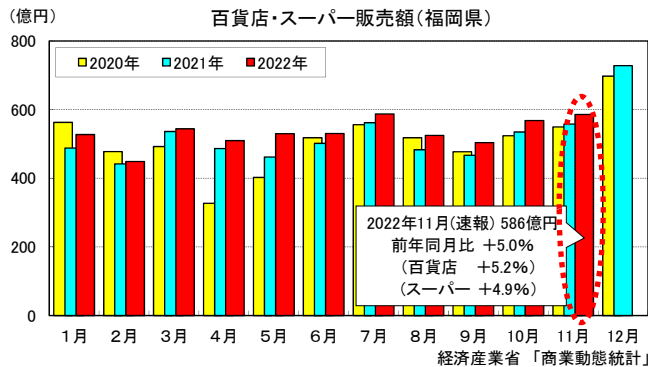
11月の輸出額は、前年同月比+42.8%、輸入額は同+18.5%といずれも前年同月を上回りました。



消費

緩やかに持ち直している。

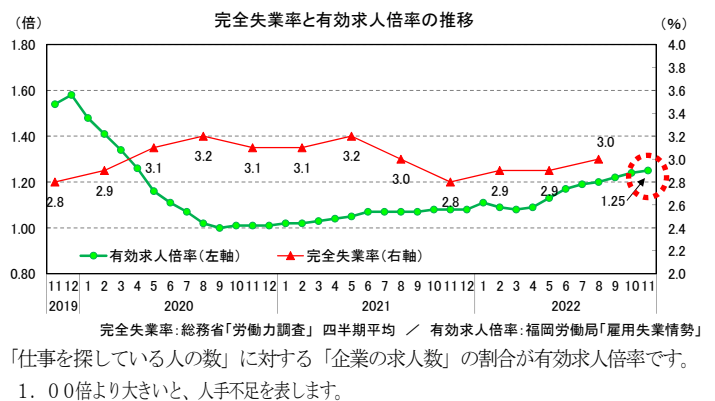
11月の百貨店・スーパー販売額は、14か月連続で前年同月を上回りました。



雇用

雇用情勢は、改善しているものの、一部に厳しさがみられる。

11月の有効求人倍率は1.25倍で、前月から0.01ポイント上昇しました。



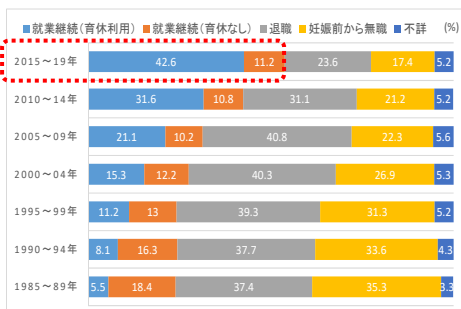
今月のトピック 女性の自己啓発の実施促進に向けて

○出産・育児に関して休業制度等の整備が進んだことで、女性の就業状況は大きく変化しています。出産後も同じ職場で継続して就業する割合は、直近で過半数を超えました。(図表1)

○キャリアアップを図る上では、一層の自己啓発が求められますが、その課題として、特に女性は「家事・育児で余裕がない」と感じている人が男性に比べ圧倒的に多い状況です(図表2)。実際、男女別にみた家事・育児にかかる時間は、少しずつ差が縮まってきているものの、女性の方が圧倒的に長い状況は、過去30年以上変わっていません。(図表3)

○2022年10月から産後/育児(出生時育児休業)が始まるなど、男性が家事・育児に女性と同様に関わり、かつ仕事との両立を図る環境整備が進められています。こうした制度の普及・活用等が、女性の自己啓発の実施促進にも好影響を与えと考えられます。

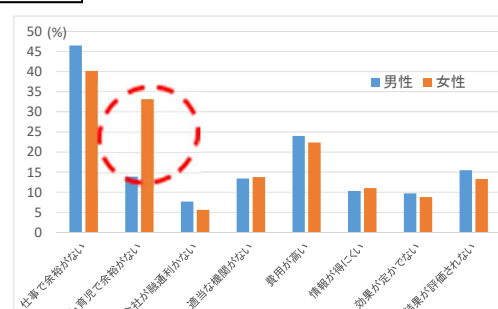
図表1 出産前後の妻の就業変化(第1子)



出所: 国立社会保障・人口問題研究所

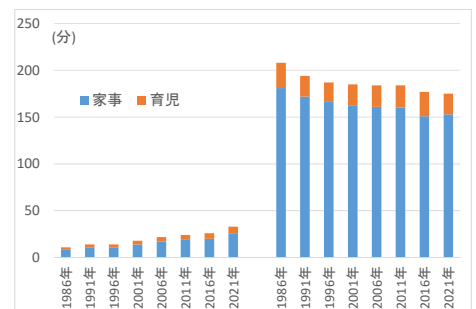
「第16回出生動向基本調査」

図表2 労働者が自己啓発を行う上で感じる課題



出所: 厚生労働省「労働経済白書(令和4年版)」

図表3 家事・育児にかかる時間(1日当たり)



出所: 総務省「社会生活基本調査」